

パーソロミュー・ロバーツ一味の掟

Articles of Agreement (一七二〇年ごろ・全十一条)

船員一同（以下「甲」という。）に属する各人（以下「乙」という。）は、甲をよりよく保ち、互いに正義を行うため、後日の紛争及び口論を避けることを目的として、次のとおり合意し、これに署名及び宣誓のうえ、誠実に遵守することを相互に誓約する。

Articles, to be signed and sworn to, for the better Conservation of their Society, and doing Justice to one another.

第一条（議決権及び物資の配分）

- 1 乙は、甲の重要な事項について一票を有する。
- 2 乙は、その時々甲が得た新鮮な食料及び酒類について平等の権利を有し、随意にこれを用いることができる。ただし、欠乏が生じ、甲全体の利益のために節減を要すると投票で決したときは、この限りでない。

I. Every Man has a Vote in Affairs of Moment; has equal Title to the fresh Provisions, or strong Liquors, at any Time seized, and use them at pleasure, unless a Scarcity (no uncommon Thing among them) make it necessary, for the good of all, to vote a Retrenchment.

第二条（分配の順序及び着服の処罰）

- 1 戦利品の船に乗り込む乙は、名簿に従い、公正に順番に呼ばれるものとする。この場合、正規の分け前に加えて、着替え一組が認められる。
- 2 乙が甲を欺き、金銀、宝石又は金銭につき一ドル相当でも着服したときは、無人島への置き去りをもってこれを罰する。
- 3 前項の窃盗が乙相互の間にとどまるときは、その者の耳及び鼻を裂き、無人島ではないが困苦に遭うことが確実な地に上陸させるにとどめる。

II. Every Man to be called fairly in turn, by List, on Board of Prizes, because, (over and above their proper Share,) they were on these Occasions allowed a Shift of Cloaths: But if they defrauded the Company to the Value of a Dollar, in Plate, Jewels, or Money, MAROONING was their Punishment. ... If the Robbery was only between one another, they contented themselves with slitting the Ears and Nose of him that was Guilty, and set him on Shore, not in an uninhabited Place, but somewhere, where he was sure to encounter Hardships.

第三条（賭博の禁止）

乙は、甲の施設内において金銭を賭けてカード又は賽子による賭博を行ってはならない。

III. No Person to Game at Cards or Dice for Money.

第四条（消灯）

- 1 灯火及び蠟燭は、午後八時に消すものとする。
- 2 同時刻の後もお飲酒を望む乙は、屋外においてこれを行うものとする。

IV. The Lights and Candles to be put out at eight o'Clock at Night: If any of the Crew, after that Hour, still remained inclined for Drinking, they were to do it on the open Deck.

第五条（武器の整備）

乙は、銃、拳銃及び短剣を清潔に保ち、いつでも使用に適する状態に整備しなければならない。

V. To keep their Piece, Pistols, and Cutlash clean, and fit for Service.

第六条（少年及び女性の加入禁止）

- 1 少年及び女性を甲に加えてはならない。
- 2 女性を誘い、これを変装させて甲に加入させた乙は、死をもってこれを罰する。

VI. No Boy or Woman to be allowed amongst them. If any Man were found seducing any of the latter Sex, and carried her to Sea, disguised, he was to suffer Death.

第七条（脱走及び持ち場の放棄）

甲から脱走し、又は戦闘中に持ち場を離れた乙は、死又は無人島への置き去りをもってこれを罰する。

VII. To Desert the Ship, or their Quarters in Battle, was punished with Death, or Marooning.

第八条（内部における暴力の禁止及び紛争の解決）

乙は、甲の施設内において相互に打撃を加えてはならない。乙相互の争いは、施設外において剣及び拳銃をもって決するものとする。その方法は次のとおり。

VIII. No striking one another on Board, but every Man's Quarrels to be ended on Shore, at Sword and Pistol, Thus:

〔原典の註〕当事者が和解に至らないとき、甲のクォーターマスターは、相当と認める補助者を伴って当事者を施設外に伴い、所定の歩数を隔てて背中合わせに立たせる。合図により、両者は直ちに振り向いて発砲する。これを怠る者は、その場で銃を叩き落とされる。両者とも外した場合は短剣による決闘に移り、先に血を見せた者を勝者とする。

The Quarter-Master of the Ship, when the Parties will not come to any Reconciliation, accompanies them on Shore with what Assistance he thinks proper, and turns the Disputants Back to Back, at so many Paces Distance: At the Word of Command, they turn and fire immediately, (or else the Piece is knocked out of their Hands:) If both miss, they come to their Cutlashes, and then he is declared Victor who draws the first Blood.

第九条（解散の制限及び傷害補償）

- 1 乙各人が一〇〇〇ポンドを分け取るまでは、何人も甲を解散する話をしてはならない。
- 2 その過程において、職務中に腕若しくは脚を失い、又は不具となった乙に対しては、甲の共有財産から八〇〇ドルを支払う。
- 3 前項より軽い傷害については、その度合いに応じて按分した額を支払う。

IX. No Man to talk of breaking up their Way of Living, till each had shared a 1000 l. If in order to this, any Man should lose a Limb, or become a Cripple in their Service, he was to have 800 Dollars, out of the publick Stock, and for lesser Hurts, proportionably.

第十条（分配比率）

戦利品の分配は、甲の長及び管理役を二株、次席、監督役及び砲術役を一株半、その他の役職者を一株四分の一とする。

X. The Captain and Quarter-Master to receive two Shares of a Prize; the Master, Boatswain, and Gunner, one Share and a half, and other Officers, one and a Quarter.

第十一条（楽師の休息）

楽師は、安息日に休息をとることができる。ただし、他の六日間は、昼夜を問わず、特別の許可がない限り休むことはできない。

XI. The Musicians to have Rest on the Sabbath Day, but the other six Days and Nights, none without special Favour.

以上のとおり合意した証として、乙各人は本書に署名し、聖書の上でこれを誓約する。

年 月 日

署 名

署 名

署 名

出典 Charles Johnson, A General History of the Pyrates (1724). テキストは Project Gutenberg 版 (#40580) による。

※ 日本語は番組による仮訳。既訳（『海賊列伝』中公文庫、朝比奈一郎訳）とは文言が異なる。

※ 署名された掟の原本は現存しない。本文は海賊自身の供述から再構成された要旨である。

※ 聖書のない船では、鉦にかけて誓ったとの記録がある。

※ 条見出し・項番号・前文・後文・署名欄、及び「甲」「乙」の呼称は、番組が契約書の体裁に整えるため付したもので、原典にはない。原文は **Every Man / the Company / on Board** 等。

※ 「〔原典の註〕」は、原典で条文（イタリック体）を外れ、著者ジョンソンの説明文となっている部分である。